

これからの社会で求められる能力とは

開倫塾

塾長 林明夫

団塊の世代が75歳を超える2025年から高齢化に伴う介護・医療・福祉等あらゆる問題が現実化する。社会の負荷を最小限にしながら平均寿命を少しずつでも伸ばし続けるには、当事者であるわれわれ団塊の世代の自覚と、いつまでも若々しく生きるための能力強化が求められる。

とりわけ、生活習慣病の発症や再発の防止、認知症や寝たきりにならないことは、社会人としての最も大切な能力と考える。

60歳定年制の開倫塾では、無理のない形で85歳まで仕事を続けることを全社員にお願いしている。ただし、社会の変化に対応した仕事ができる能力を身につけることが欠かせない。

円高のため生産拠点を海外に移転しつつある製造業や、環境・介護・観光等の新成長分野を目指す方々に欠かせないのは、ITと英語、専門領域の深い知見だ。

現在では世界最高レベルの一人当たりGDPを誇る北欧のフィンランドが経済危機に陥った90年代に国を挙げて取り組んだのが、国民一人ひとりのIT、英語、専門領域の能力強化だった。

国も自治体も雇用対策はフィンランドを参考にし、思い切ってこの3分野に絞り込んだらどうか。サービス産業や農業・林業分野、非営利分野も生産性向上と独自能力や競争力強化にもITと英語、専門領域の深化は不可欠だ。

学校時代に身につけておくべき能力とは何か。教科教育、教科外の教育活動はすべて社会に出て役立つ。受験勉強もそれまで不確かであった知識を十分理解し、定着させるために行うと考えれば、役に立つ。

これに加えて、これからの社会で役立つのは、自分や社会の課題を発見する能力と、発見した課題を解決する能力だ。

そのためには、学び方を学ぶ能力と、読書による思慮深さを身につける能力、新聞を読んで自分の力で考える能力、つまり批判的能力を身につけることが大切だ。

国や自治体は、これからの社会で求められる能力を身につけるサポートをして頂きたい。大学や公立図書館の365日、朝6時から夜10時すぎまでの開館は、最も有効な支援策の第一と考える。